

部局名	子ども部	所属名	子育て支援課	所属長名	野口 啓子	電 話	483-1151 内線2270
-----	------	-----	--------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3719		事務事業名称	児童健康支援一時預り事業					短縮コード	経常	3719	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	03	民生費	項	02	児童福祉費	目	02	児童措置費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他					根拠法令等	千葉県乳幼児健康支援一時預かり事業実施要綱。八千代市病児・病後児保育事業実施要綱						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
子育てと就労の両立の支援として国が平成6年より、事業を開始した。その事業を知る小児科医院が、診療所の建設にあわせて事業実施の申し出があり、委託した。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測						総合計画の施策体系	5本の柱（章）	01	健康福祉都市をめざして				
新型インフルエンザ発生によりクラス閉鎖や学級閉鎖の影響があり、例年に比較し利用者が減少。 新規委託先の確保。							大項目（節）	02	社会福祉				
							中 項 目	01	児童福祉				
							小項目（施策）	01	保育園の充実				
							細 項 目	02	多様な保育ニーズへの対応				
						実 施 計 画 の 計 画 事 業							
計画事業の位置付けの有無				☐	計 画 事 業 期 間		平成11年4月 ～		計 画 事 業 費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	保育園・学童保育所等に通っている児童						
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成21年度に実際に行ったこと： あべこどもクリニックに委託して、病児・病後児保育を実施する。①申し込み②決定③保育実施④報告⑤委託料支払い						
	※平成22年度に計画していること： あべこどもクリニックに委託して、病児・病後児保育を実施する。①申し込み②決定③保育実施④報告⑤委託料支払い						
意図 （何を狙っているのか）	就労している保護者がこどもの病気看護で、休まなくてすむ。仕事と子育ての両立支援						
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外						
区 分			単位	2 0 年度	2 1 年度		2 2 年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	保育園，学童保育所に通っている児童	人	32, 245	32, 400	32, 693	33, 000
	指標 2						
	指標 3						
活動指標	指標 1	利用した児童	人	1, 396	1, 450	1, 291	1, 450
	指標 2						
	指標 3						
成果指標	指標 1	利用した児童の割合	%	4. 33	4. 48	3. 94	4. 39
	指標 2						
	指標 3						
上位成果指標	指標 1						
	指標 2						
	指標 3						

コード	3719	事務事業名称	児童健康支援一時預り事業				所属名	子育て支援課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			現在，市内1箇所で実施しているが，今後他地域に増設することにより，市内全域をカバーし利便性を高める必要がある。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☒ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			利用者の増加や，今後他地域に新規委託することにより，コストの増加はやむを得ない。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
低 下	☐		☐	☐				

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
新規委託先の確保。									

所属長コメント	就労している保護者が，病気看護で仕事を休まなくても安心して児童を預けられる，仕事と子育ての両立支援事業であり，保護者のニーズも高く，今後も継続していく必要性の高い事業である。								
	評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			病児・病後児の受け入れ施設の拡大については，費用対効果を検証したうえで，課題解決に努め，順次推進すべき。				
		☐ 手法プロセスの改革・改善							
		☒ 事業規模の拡大・縮小							
☐ 統合・役割見直し									
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									